水曜通信39

2024年
7月

東北学院宗教センター編

第74回 水曜公開礼拝
2024年７月17日（水） 18：30－19：00

＜礼拝次第＞

前　奏：H.シャイデマン作曲
「天にまします我らの父よ」

讃美歌：452番　「ただしくきよくあらまし」

聖　書：マタイによる福音書 26章47－52節

讃美歌：453番　「きけやあいのことばを」

説　教：「剣を鞘に納めない」

頌　栄：542番　「よをこぞりて」

後　奏：G.ベーム作曲
「いと高きところの神にのみ栄光あれ」

説教
大学宗教主任
大門　耕平

奏楽・第２部演奏
礼拝オルガニスト
渡辺　真理

後奏の後、渡辺 真理氏（礼拝オルガニスト）によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第75回水曜公開礼拝は９月18日です。
８月はお休みです。

第73回 水曜公開礼拝報告（説教：大西 晴樹、奏楽：今井 奈緒子）

2024年６月19日（水）　18：30－19：00

讃美歌：405番 「かみともにいまして」
聖　書：ローマの信徒への手紙 14章18節
　　コリントの信徒への手紙一 15章32節
讃美歌：320番 「主よみもとにちかづかん」1,2,5節
説　教：「受肉と超越：鐸木道剛先生を偲ぶ」
頌　栄：541番 「ちちみこみたまの」

【説教要旨】

本説教は、去る２月15日に73歳で召天した元文学部総合人文学科教授で、理事長特別補佐としても活躍した鐸木道剛先生の生前の姿を偲ぶものである。鐸木先生は、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂正面のステンドグラスの修復、校祖であるW・E・ホーイ、D・B・シュネーダーを仙台に派遣したランカスター神学校との学術交流の再開など、東北学院にとって有益な多くの働きをなしたが、その働きは、不治の病を抱えながらも、受肉と超越の信仰によって、「命」と「永遠の命」を結び付けようとした晩年の壮絶な生き方を示すものでもあった。

（院長・学長・宗教センター所長　大西 晴樹）

前奏：J. バーンビー作曲「星は出でてわれを招く」
後奏：F. ペータース「この世にあかしをたて」

前奏は19世紀イングランドの詩人A. テニスンの詩 “Crossing the Bar”にJ. バーンビーが曲を付けた讃美歌で、日本では昭和６年版の讃美歌集収録。「星は出でてわれを招く かの岸指してゆくに嘆きあらじ。されど白浪高く立ち騒ぎて 海のあるを見ればためらはる～いまはの日わがきみに我はまみえん」と歌う。

後奏は同じくイングランドのヴォーン＝ウィリアムス作曲によるマーチ風の讃美歌「この世に証しを立て」にドイツのF. ペータースが編曲を施した曲。

（大学オルガニスト　今井 奈緒子）

礼拝と第２部に行われた鐸木道剛先生の追悼音楽会に95名の方が参加されました。

第２部：鐸木道剛先生追悼音楽会
（オルガン演奏：今井 奈緒子、椎名 雄一郎、賛美：中川 郁太郎・教職員聖歌隊）

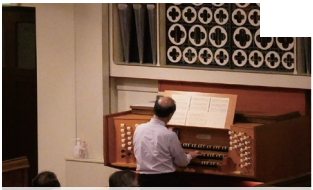
～追悼音楽会次第～

故人略歴紹介
追悼の言葉　松本　宣郎（前理事長・院長）
オルガン演奏　今井奈緒子（教養教育センター教授・大学オルガニスト）
　　D. ブクステフーデ編曲
　　コラール編曲「喜びと平安もて 我は逝く」（シメオンの賛歌）BuxWV75 全5節
　　椎名雄一郎（文学部教授・宗教音楽研究所所長）
　　J. ブラームス作曲
　　コラール前奏曲「我がイエスよ、私を導いてください」op.122-1
賛　　美　中川郁太郎（特任准教授）
　　「星はいでてわれを招く」A. テニスン詞／J. バーンビー曲
　　教職員聖歌隊
　　「あなたの平和の」聖フランシスコの祈りから
　　讃美歌21　108番「眠れ、主にありて」
閉会の祈り

オルガン演奏　今井奈緒子教授

賛美　教職員聖歌隊

第２部
追悼記念音楽会


オルガン演奏　椎名雄一郎教授

追悼の言葉　松本宣郎先生

賛美　中川都太郎特任准教授

― 建築が語る東北学院の歴史（30）―

工学部開設時に設置された学科は、機械工学科・電気工学科・応用物理学科の３学科でした。機械工学科には小柴文三郎学科長（東京都出身・東京大学工学部卒・材料力学）以下10名の専任教員がおり、電気工学科には遠藤義雄学科長（宮城県出身・東北大学工学部卒・無線工学）以下８名、応用物理学科には野邑雄吉学科長（山口県出身・東北大学理学部卒・物理学）以下10名が着任しました。実験・実習・実地見学については「所在各社よりの申し出」があり、夏休みや特別講義の形で実施したとあります。地域社会と密接に連携しながら、現代の企業インターンシップに類するようなプログラムを含む教育課程が構築されていたことが分かります。最初に新築された校舎は、前号でも紹介した旧３号館（図１白色のL字型部分）でした。

開設当初から、完成後（四か年経過後）には「応用化学科、土木・建築学科、工業経営学科等を設置する計画のもと準備を進めたい」（設置認可申請書）との構想もあったようです。敷地払下げ交渉の中では、当初から「土木・建築」という語が出ていたとされます。設置認可申請書には、校地33,707坪に加えて既設の笠神運動場が16,000坪あることから、将来の学科増設にも対応可能であると記されています。

（工学部　﨑山 俊雄）

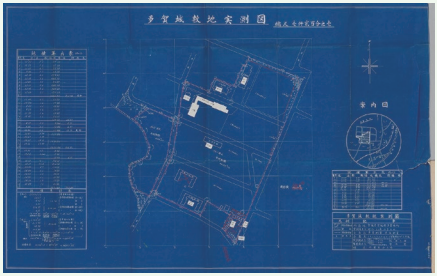


図１　多賀城キャンパス配置図（国立公文書館蔵）

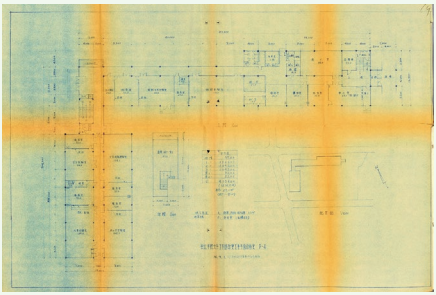


図２　多賀城キャンパス新築校舎平面図（同左）

街とともにある礼拝堂―シュティフツキルヒェの紹介
～東北学院卒業生便り～

みなさん、こんにちは。2012年に東北学院大学総合人文学科を卒業したわたしはいま、南ドイツにあるエバーハルト・カール大学テュービンゲン（通称テュービンゲン大学）に在籍しています。テュービンゲンの大学街と切り離せない教会、シュティフツキルヒェについて、みなさんに紹介します。

駅を降りネッカー川を渡ると、テュービンゲンの市街地に入ります。川に架かったエバーハルト橋の向こうにはカラフルな家並みが広がり、その家並みから一本抜きんでた尖塔がシュティフツキルヒェのランドマークです。

原型となった教会堂はすでに11世紀にはありましたが、後期ゴシック様式からなる現在の教会堂は1470－90年に建てられました。会堂の最奥の折り畳み式祭壇には、アルブレヒト・デューラーの弟子ハンス・ショイフェリン描くキリストの磔刑図がおさめられます。大学を設立したヴュアテンベルク州の領主エバーハルト１世の石棺やモニュメントが堂内に安置され、中世から続く聖なる息づかいを感じます。

礼拝では大学のクリスチャン学生団体（Evangelische Studierendengemeinde：通称ESG）が司式の一部を担うこともあり、学期はじめの始業礼拝がここで献げられます。日曜の礼拝には街の人もよく参加し、広場に面した階段は、街のすべての人に共同の休息を与えてくれます。大学や街と一体となった礼拝堂は、東北学院のみなさんの心にも印象深くのこると思います。旅行の際は、ぜひ、立ち寄ってみてください。

（日本基督教団牧師　藤田 健太）

シュティフツキルヒェ 尖塔

礼拝堂内正面

祭壇画

広場前階段

［写真提供：藤田 健太］

東北学院宗教センター編「水曜通信」第39号
2024年７月３日発行
発行責任者：宗教センター主任　原田 浩司
東北学院宗教センター　TEL：022-354-8310
〒984-8588　仙台市若林区清水小路３-１
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

宗教センターHP